

守恒小だより

発行者 北九州市立守恒小学校

校長 新森 修二

水泳の学習に取り組んでいます。

6月17日（月）より水泳の学習に取り組んできました。

水泳の学習は、学年によってねらいが変わります。低学年は、水中を動き回ったり、もぐったり、浮いたりする心地よさを楽しみます。中学年では、水に浮いて進んだり、様々な方法で水にもぐったり浮いたりする楽しさに触れます。高学年になると「クロール」「平泳ぎ」や「安全確保につながる運動」となります。続けて長く泳いだり、泳ぐ距離や浮いている時間を伸ばしたり、記録を達成したりする楽しさや喜びを味わうことがねらいとなります。

高学年では、自分の課題を見付け、その解決のための活動を工夫したり、仲間と教え合ったりしながら活動していきます。授業では、子ども達が自分の挑戦したいコースを選んで、楽しそうに練習に取り組んでいました。

ただいろいろな学年の授業の様子を見ていて、気になることもありました。以前に比べて、「水に顔をつけることができない」「浮くこと（足を離すこと）ができない」という児童が多くなったような気がします。コロナ禍で水泳の学習が中止となった時期があったことが理由ではないかと感じました。安全確保という面からも、浮くという動きについては身に付けて欲しいと思っています。

さて、本年度の水泳の学習におきましては、多くの保護者の方に監視のお手伝いをしていただきました。おかげさまで、教員は安心して指導に集中することができました。

暑い中、本当にありがとうございました。



先生方の授業研究が始まりました。

学校では、子ども達の力を育むための研究を行っています。守恒小学校では「学び合い」という学習法を取り入れることで、学級の子供達みんなで発見したり、分かるようになったりすることを目指しています。この研究も3年目になりましたので、子ども達の中には「学び合い」という言葉がかなり定着してきていると思います。

7月9日（火）5校時に6年1組で算数科の研究授業が行われました。6年生の子ども達は「4つの中から2つを選ぶ場面」の解き方について考えました。

「表を使う方法」と「樹形図を使う方法」のどちらの方法が簡単で便利なのかが問題となりました。子ども達は小グループに分かれ、「なぜその方法がよいのかという理由（根拠）」について意見を出し合いました。活発に話し合うので、様々な理由が見つかっていきました。それを全体場で発表し合いました。ここに「学び合い」の価値が生まれてきます。なぜなら子ども達の見方や考え方が活用され、より深い学びになっていくからです。（ここでは、「4つの中から3つを選ぶ場面でも使える」の考え方が導き出されました。）単に知識を獲得するだけなら、どこでも学べます。しかし、友達と話し合い、見方や考え方を広げたり、深めたりできるのは学校のよさであり、将来に使える力であると考えます。

先生方の協議会（反省会）でも子ども達が主体的に学べる方法について意見が交わされました。守恒小学校の新しい学びが成果を出すことを願っています。

